

露國軍艦「デアナ」號遭難記事

委員 理學博士 大森 房 吉

次ニ譯出スルハ安政元年十一月四日下田港ニテ大津浪ニ襲ハレタル露國フリゲート形軍艦「デアナ」號ノ遭難記事ニシテ同艦乗組一士官ノ日記ヨリノ摘要ナリ

原文ハ三宅醫學博士ノ好意ニ依リ、同博士ヨリ借覽セリ、茲ニ同博士ニ對シ謝意ヲ表ス

千八百五十四年十二月二十三日(即チ安政元年十一月四日)ノ朝、艦ノ碇泊位置ヲ變ゼントシテ午前九時ニ小碇ヲ下シタルガ、同九時四十五分ニ突然艦體ガ振動スルコト甚シク約一分間續キタレバ淺瀬ニ乗リ上ゲタルナラント想像シ、水深ヲ計リタルニ、八尋ノ深サナルノミナラズ當日極メテ快晴靜穩ニシテ天一點ノ雲モ無ケレバ、船體動搖ノ現象モ其儘ニシテ別段意ニ留メズ、艦上ノ任務ヲ常ノ如ク續ケ居リタルニ午前十時ニ至リ、大浪一個灣内ニ押シ寄せ來リ忽チ濱邊ニ卷キ上ゲテ下田市街ヲ浸シ、艦上ヨリ望ミ見レバ宛モ下田ノ家屋ガ陷没スルガ如クニシテ、一艘ノ大形日本船ハ恐ロシキ勢ヲ以テ陸上ニ打チ上ゲラレ、露艦ハ其ノ碇ヲ失ハザリシモ、陸上ニテ修繕中ナリシ短艇ハ海上ニ漂ヒ出デタレバ其ヲ取り來ル

爲ニ小舟ヲ出シタル所、約五分時間ヲ經テ灣内ノ水ハ泥濁リテ外海ニ流出シ始メタリ、此ノ時、艦上ノ大砲ヲ緊縛シ、下甲板ノ砲門ヲ閉ザシ、出入口ヲ締メ付ケナドセルガ、短艇ガ漸クノ事ニテ本艦ニ歸着セルヤ否ヤ、第二回目ノ大浪灣内ニ押シ寄せ來レリ、同時ニ水上ノ船ハ悉ク陸上ニ持チ去ラレ、此ノ浪ノ退却ト共ニ、下田市街ノ家屋ハ海上ニ漂ヒ出サレ、水面ハ家屋ト日本船ノ破壊片トニテ覆ハレタリ、小時ニシテ大形ノ日本船一隻漂ヒ來リテ、本艦ニ非常ノ激シサニテ突キ當リ、左舷ニ破損ヲ生ジタレバ、其ノ損ジノ個所ヨリ日本船ノ船頭等ハ本艦ノ甲板ニ上リ來リタルガ五人ダケハ來ルヲ肯ンゼザリシニ、二分時ヲ過ギザル内ニ日本船ハ全ク轉覆シ、同時ニ露艦ハ甚シク廻轉シ、約半時間ハ斯クシテ動搖セリ、其ノ間六七十回ハ廻轉シタルナルベク、斷エズ碇ヲ引ズリ、次第ニ一小島ニ近寄リタルガ、今ハ全ク波ノ動カス儘ニシテ、艦ヲ操ルノ術盡キハテ、遂ニ殆ド横倒シトナリ、甲板ニ止マルコト能ハザルニ至レリ、此カル状態ニアルコト約五分間ニシテ水嵩増シ來リタレバ海底ヨリ離ル、ト共ニ艦腹ニ損害ヲ與へ、直立シ得ル迄ニ數回モ廻轉セリ、此ノ時大砲ノ緊縛ヲ脱シテ海中ニ落ちタルモノ一個アリテ一人ヲ殺シ、二人ヲ傷ケタリ

正午ニ至リ、津浪ハ少シク其ノ勢ヲ減ジタルガ、午後零時三十分ニ至リテ海水再ビ激シク灣内ニ注入シ、露艦ヲ振搖セリ此クスルコト午後二時半頃迄繼續セルガ其間ニ艦體ガ殆ト横倒シトナルコト五回ニ及ベリ、尤モ初回ノ如クニハ甚シカラザリキ

海水ノ干満ハ頗ル急ニシテ、五分時間ノ内ニ二十三尺ヨリ三尺ニ減ゼルコトアリ、就中一回ノ如キハ水ノ減退セルコト甚シクシテ凡テノ碇ガ水面上ニ現ハレ出デタルコトアリキ、午後三時ニ至リテ海水ノ動搖靜マリ、艦ノ碇泊セル處ノ水深ニ十二尺ナリシガ、艦體破損ノ爲メ、浸水夥ク毎時間ニ約二十吋ヅ、沈下リ、遂ニハ全ク沈没シ其ノ四周ハ日本船ト家屋ノ破壊片ノ浮游スルノミナリシガ、漂流セル屋根ヨリ一人ノ老婦ノ半死ナリシヲ救助セリ

